No.172　腎細胞癌の甲状腺転移

熊本医療センター　病理診断科　鹿島　星林

①＜症例＞腎細胞癌の甲状腺転移　（淡明細胞型腎細胞癌）　60代　女性
②＜既往歴＞C型肝炎　、左腎癌術後（当初伝票記載なし）
③＜臨床経過＞C型肝炎にてIFN治療後、5年ぶりに外来受診。
CTにて甲状腺左葉に腫瘤を認めた。
頸部超音波検査では、境界明瞭、内部エコー不均一な低エコー、
大きさは33.8×　27.3×36.7 mmであった。
④＜検体＞甲状腺腫瘤より穿刺吸引
⑤＜細胞診所見＞弱拡像は､出血性の背景に結合性のあるN/C比の低い細胞集塊を認めた。核は小型～中型で、核形は円形や楕円形、核形不整、クロマチンは顆粒状で不均等分布、核小体腫大を認めた。少数だが核の切れ込みや核内細胞質封入体も認めた。
⑥＜組織所見＞腫瘍部は繊細な血管網を背景に淡明な細胞質を有する腫瘍細胞の増殖を認めた。一部で被膜外への浸潤も認めた。
⑦＜鑑別点＞明細胞型濾胞癌との鑑別が重要。明細胞型濾胞癌は、基本的には濾胞構造を示す細胞集塊での出現が目立ち、周囲に散在性の細胞もみられる。核の大小不同性はあまり顕著ではないもののクロマチンは増量し、micro-Follicularな重積が著明。N/C比が高いものが多く、胞体は少量で淡明である。しかし、実際は形態による鑑別は困難であり、既往歴の有無や、免疫組織化学が診断に有効。腎細胞癌の転移ではCD10,CD15,Vimentin,EMA,CAM5.2が大半の症例で陽性。

＜文献＞

1. S aitoh H : Distant metastasis of renal adenocarcinoma. Cancer 48 : 1487-1491, 1981
2. Wada N, Hirakawa S, Rino Y, et al. : Solitary Metachronous Metastasis to the Thyroid from Renal Clear Cell Carcinoma 19 Years After Nephrectomy : Report of a Case. Surg Today 35 : 483-487, 2005
3. Wychulis AR, Beahrs OH, Woolner LB : Metastasis of carcinoma to the thyroid gland. Ann Surg 160 : 169-177, 1964 .
4. 小林　薫, 八代　亨, 鈴木　章他：腎癌甲状腺転移の２例.　日臨外医会誌　51：1063-1067, 1990
5. 井上滋彦, 吉田雅彦, 板倉宏尚他：腎摘７年後甲状腺転移 をきたした腎細胞癌の１例.　泌外　４：497-499, 1991
6. 増田　均, 川上　理, 永松秀樹他：腎癌甲状腺転移の２例.　泌紀　38：821-824, 1992
7. 甲状腺癌取り扱い規約. 第 7版